

議題 1 釜蓋遺跡の調査について

1 平成 30 年度の発掘調査について

(1) 目的

- ・ 2 号環濠内中央部で確認された大型竪穴建物跡の構造や性格の把握 (中央部①)
- ・ 2 号環濠内中央部の遺構の分布状況の確認 (中央部②)

(2) 期間 前期：平成 30 年 5 月 7 日～7 月 24 日

後期： 〃 8 月 20 日～12 月上旬 (予定)

(3) 調査位置 資料 1 参照

中央部①：3C-22・23・32・33・41～43・51・52 グリッド

中央部②：3C-5・7・8・15・16・18・19・25～28 グリッド

(4) 調査面積 1366.5 m²

(5) 内容

○中央部①の調査について (資料 1～9 参照)

- ・ 竪穴建物跡 (S I 1568) と掘立柱建物跡 (SB1585) について調査を行った。
(SI1568)

グリッド	3C-22・23・32・33 グリッド
規模・形状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東西 12.41m、南北 12.37m で、遺構検出面 (IVb 層上面) から床面までの深さは最大で約 0.2m。 ・ 平面形は、東と南の 2 辺が膨らむ隅丸方形である。
新旧関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ SI1564 と重複し、SI1568 が新しい。 ・ 近接する SI1152 とは約 50cm の距離であり、同時期の遺構ではないと考えられる。遺構覆土から SI1568 が新しいと考えられる。
覆土	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白色土 (1 層)、黒色土 (2 層)、暗灰色粘質土 (3 層)、貼床 (4・5 層) に分けられる。 ・ 3 層はⅢ-2 層と同じものと考えられる。
柱穴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主柱穴は 4 本柱 (p1・6・9・13) と考えられる。 ・ 主柱穴の覆土上層はいずれも竪穴覆土 3 層と同じであり、柱の抜取り痕と考えられる。 ・ 主柱穴以外に 4 基の柱穴が確認されており、そのうち p4 では柱根が残存する。
炉跡	確認されなかった。
壁・壁溝	北壁で 3 か所の突出部が確認された。壁溝は全周する。
周堤・周溝	確認されなかった。
出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南西の主柱穴 (p6) の柱痕覆土から壺が出土した (資料 7)。 ・ 北西から北東の壁際にかけて、床面からやや浮いた状態で土器片がまとまって出土した (資料 6 右下)。 ・ 上記の土器取り上げ作業中に、高坏・台付長頸壺の蓋が出土 (資料 8 右上)。他に小形のヒスイ勾玉が出土した (資料 8 右下)。

(SB1585)

グリッド	3C-23 グリッド
規模・形状	<ul style="list-style-type: none">・ 梁間 1 間 (3.4m) × 桁行 2 間 (3.4m)・ 平面形では独立棟持柱(p1・2)をもつ建物とみられる。・ p1 と 2 の距離は 5.4m。
柱穴	<ul style="list-style-type: none">・ 各柱穴の平面形は円形である。・ 規模は p1・2 が直径約 40cm、3～8 が直径約 25～30cm である。
覆土	いずれも暗灰色粘質土

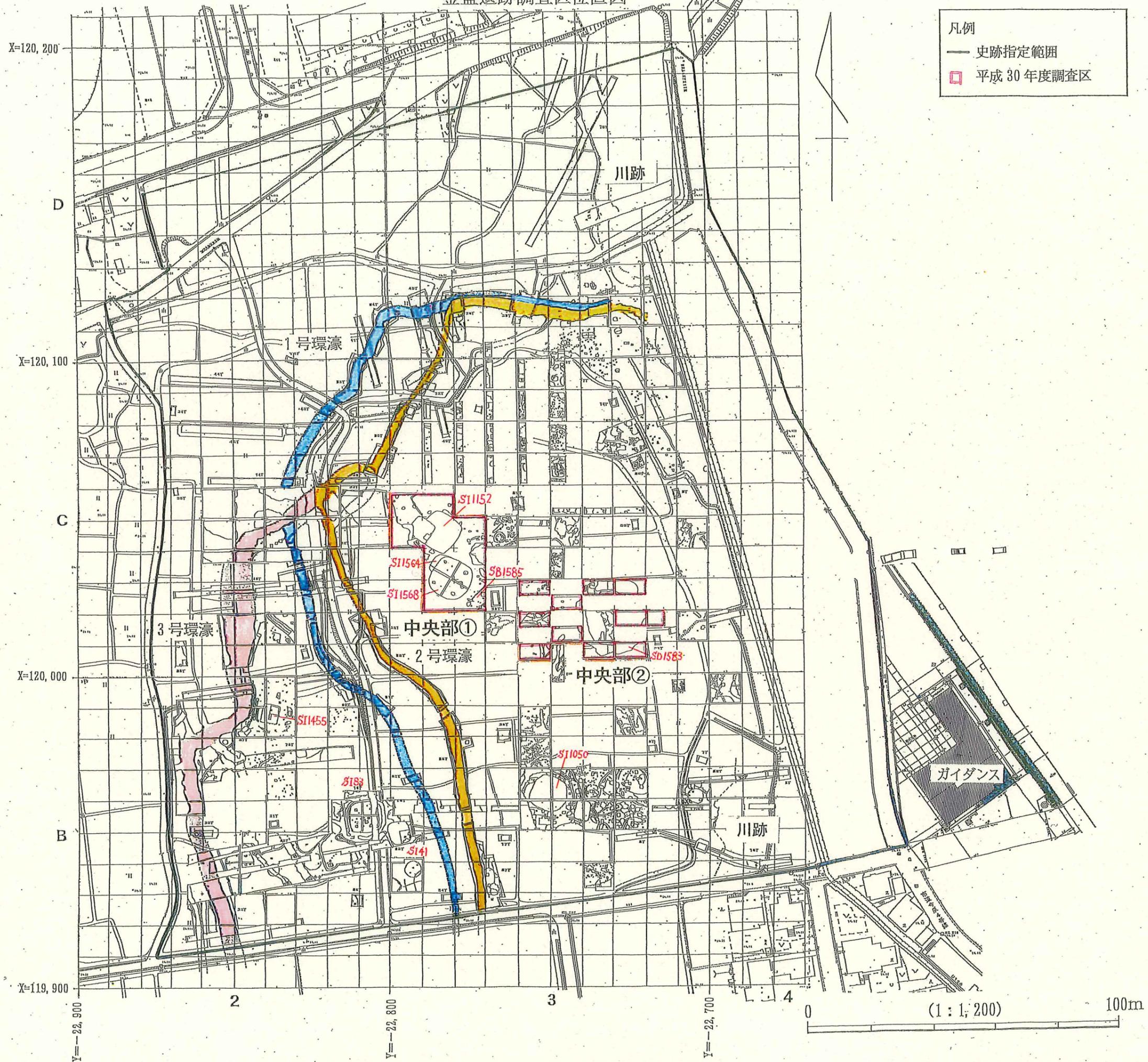
○中央部②の調査について（資料 1・2・10 参照）

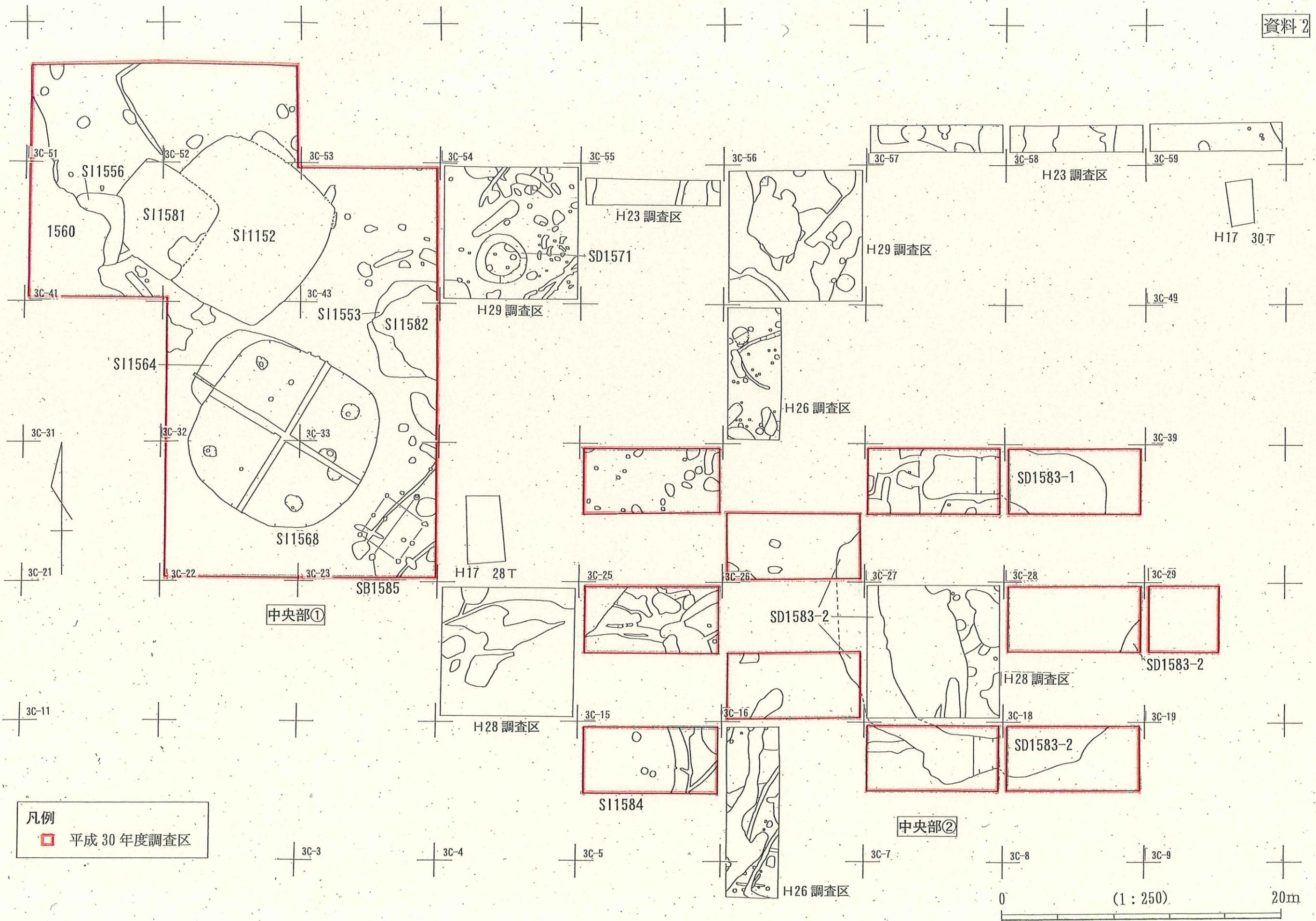
- ・ 調査区の東側、Ⅲ-2 層上面で周溝状遺構（SD1583-1・2）が確認された。

(SD1583-1・2)

グリッド	3C-7・8・16・26～28 グリッド
規模・形状	<ul style="list-style-type: none">・ 北側の溝（SD1583-1）と西～南側の溝（SD1583-2）が確認され、北西隅で途切れている。東側の溝については不明である。・ 最大幅は 2.7m、遺構検出面（Ⅲ-2 層上面）からの深さは最大で約 0.4m。・ 断面形は下部が逆台形を呈し、上部は大きく広がる。・ 溝の内寸は南北で約 17.5m である。
新旧関係	Ⅲ-2 層上面から掘りこまれる。
覆土	<ul style="list-style-type: none">・ 灰色粘質土（1 層）、灰白色粘質土（2 層）、黒色粘質土（3 層）、灰色粘質土（4 層、灰白色粘質ブロック混ざる）、暗灰色粘質土（5 層）に分けられる。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 石川委員から、「内側がきれいで、外側が乱れているため、周溝墓の可能性が高いのではないか」とのコメントを頂いている。 (10/6 現地確認)

釜蓋遺跡調査区位置図



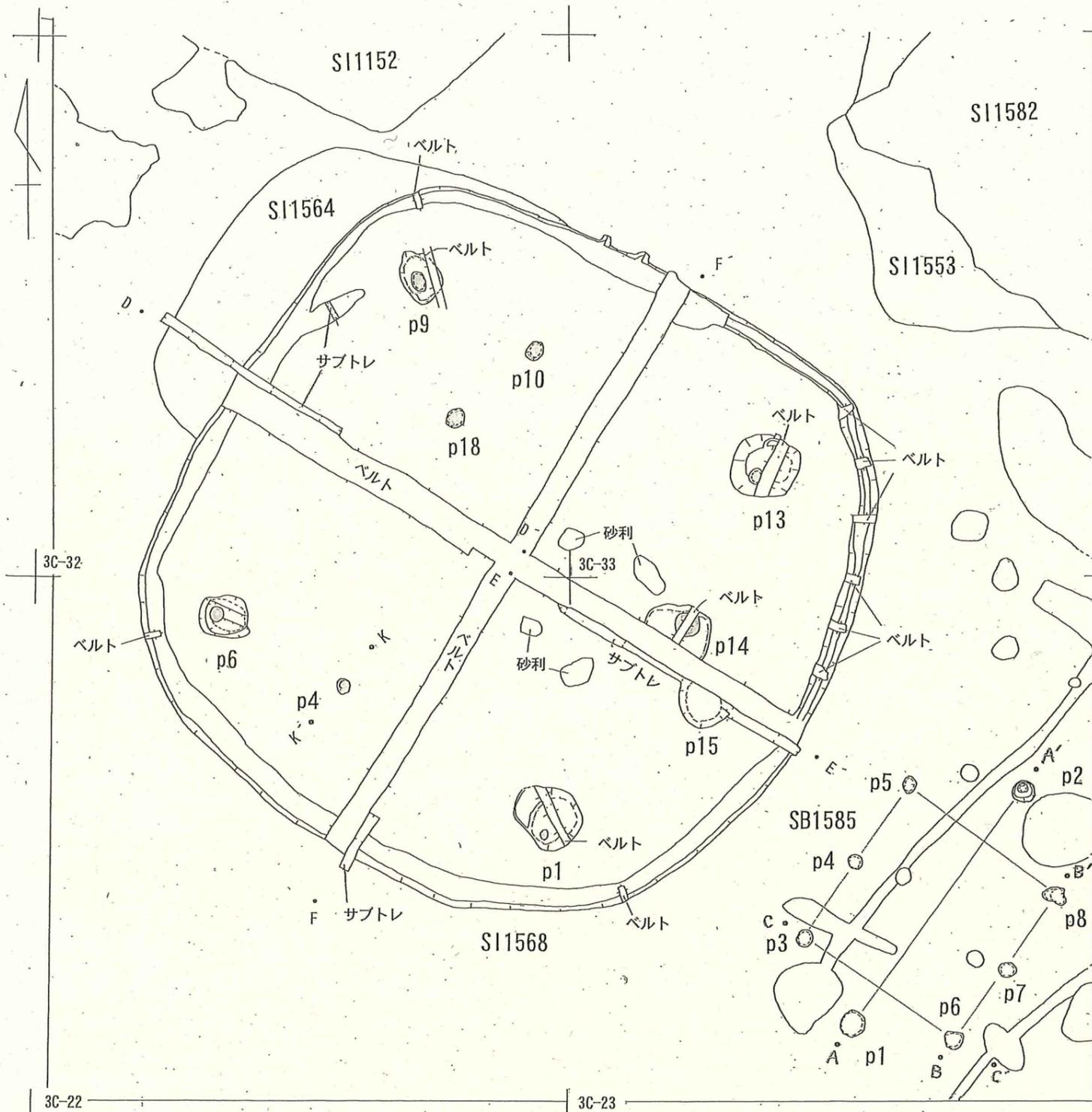


凡例
 □ 平成 30 年度調査区

平成 30 年度調査区図

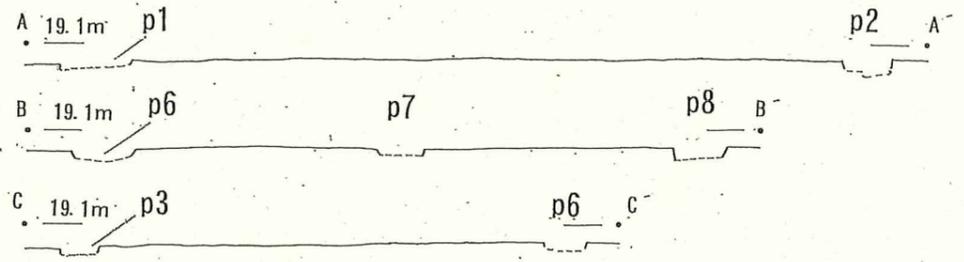


調査区 全景（上空から。平成 30 年 11 月撮影写真に 6 月撮影分の一部を合成）

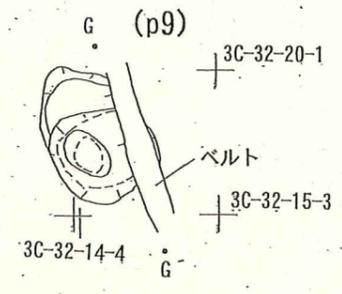


0 (1:100) 平面図 5m

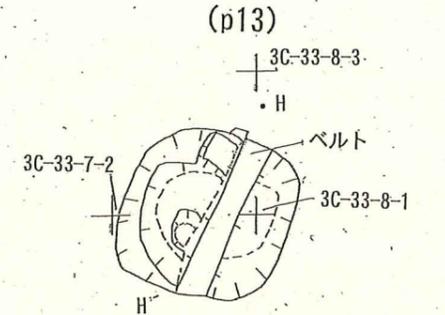
SI1568・SB1585 周辺の平面図



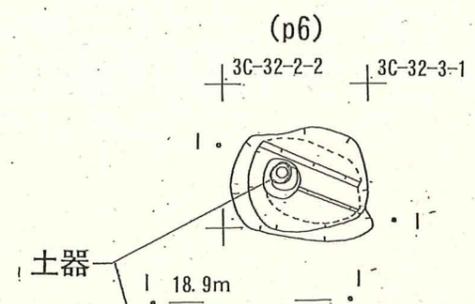
SB1585 断面図



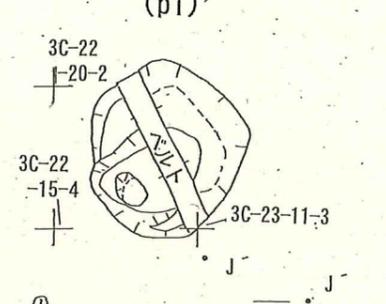
- (p9)
- 1 暗灰色粘質土
φ0.5~3cm大の炭が混ざる (柱抜き取り穴埋土)
 - 2 灰色粘質土
φ1~3cm大の灰白色粘質ブロック混ざる (柱穴掘形埋土)



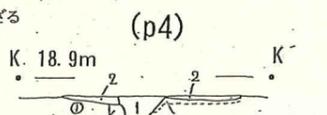
- (p13)
- 1 暗灰色粘質土
φ0.5~3cm大の炭が混ざる (柱抜き取り穴埋土)
 - 2 灰色粘質土
φ1~5cm大の灰白色粘質ブロック混ざる (柱穴掘形埋土)



- (p6)
- 1 暗灰色粘質土
固く締まり、φ0.5~5cm大の炭粒が混ざる (柱抜き取り穴埋土)
 - 2 暗灰色粘質土
粘性強く、締りがやわらかい。炭の混ざり少ない
 - 3 灰色粘質土
締りが柔らかく、φ1cm大の炭わずかに混ざる
 - 4 灰色粘質土
固く締まり、灰白色粘質ブロック混ざる (柱穴掘形埋土)



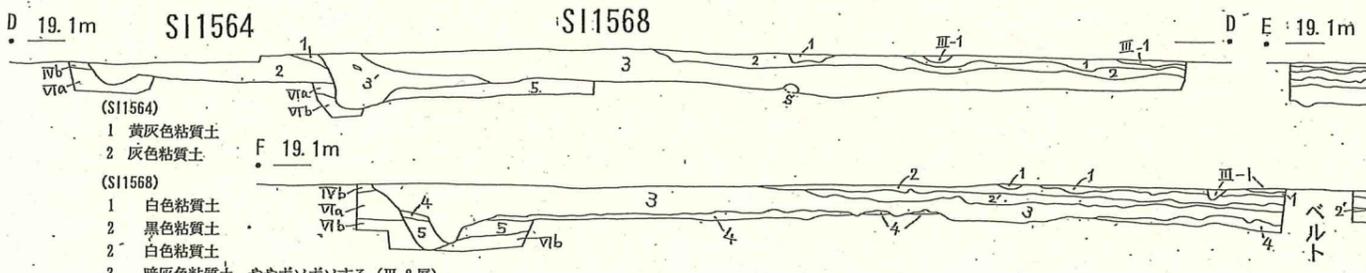
- (p1)
- 1 暗灰色粘質土
炭混ざる (柱抜き取り穴埋土)
 - 2 灰色粘質土
灰白色粘質ブロック混ざる (柱穴掘形埋土)



- (p4)
- 1 暗灰色粘質土 炭の混ざりなし (p4)
 - 2 暗灰色粘質土 φ0.5~1cm大の炭混ざる (p5)
- 柱根
- ① 黄灰色シルト (貼床)
 - ② 灰色粘質土 (貼床)

SI1568 柱穴断面図

0 (1:50) 断面図 4m



SI1568 断面図

SI1568・SB1585 平面図・断面図

- (SI1564)
- 1 黄灰色粘質土
 - 2 灰色粘質土
- (SI1568)
- 1 白色粘質土
 - 2 黒色粘質土
 - 3 白色粘質土
 - 3 暗灰色粘質土 ややボソボソする (Ⅲ-2層)
 - 3 暗灰色粘質土 炭粒多く混ざる (Ⅲ-2層)
 - 4 黄灰色砂質土+小礫 (貼床)
 - 4 黄白色砂質土+灰色粘質土 (貼床)
 - 5 灰色粘質土+灰白色粘質ブロック 部分的に下に薄い炭層あり (貼床)